



河北医科大学

Hebei Medical University



●学部学生 9,781人（本科生のみ） ●大学院生 3,431人 ●教職員 11,186人 ●留学生 約300人

ホームページ <http://www.hebmu.edu.cn/>

交流協定締結年月日：2001年11月27日 主管学部：医学部 2018年5月21日大学間協定締結



国際交流の特色

医学部医学科および看護学科学学生の訪問

河北医科大学は1894年に端を発し、他大学との統合により1995年5月に現在の大学となっている。河北省石家庄市に位置し、昔から東西の交通の要衝としても知られている。大学の構成は、学部14、大学院博士課程42、修士課程68のコースである。学生数は本科生10,491人、留学生400人（日本、韓国等）である。教職員は12,443人を超え、学生の指導にあたっている。さらに、河北医科大学は5箇所の附属病院を有し、非常に高水準な教育・研究・診療がなされている。また、日本をはじめ韓国、アメリカ、フランス、イギリス、パキスタン等の海外の大学と共同研究を活発に行っている。

交流実績（令和2年度～令和4年度）

年度	R2	R3	R4
受入・派遣			
学生受入	1	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）			
オンライン交流参加者（相手機関）	約35	0	0



学生からの声



香川大学の3年生、吳琳璇と申します。私の故郷は中国の河北省です。河北省は北京の近くにある北部の都市です。河北省には多くの食べ物や観光スポットがあり、古代の建築物もたくさんあります。2019年に中国医科大学を卒業し、2020年に香川大学医学部の博士課程に入学しました。現在は博士課程3年目で、専門は形成外科と腫瘍病理学です。最初に日本へ来た時は、いろいろ大変でしたが、三年住むと、どんどん日本での生活に慣れてきました。

この2年間に、私は医学研究を行い、先生の手術を観察し、さまざまな学会に参加しました。私の主な専門は形成外科なので、教授から変形形成外科、骨折の再建、二重まぶたの手術、外科的縫合技術など、多くの美容外科の専門知識と手術を学びました。形成外科と腫瘍病理学との連携により、腫瘍病理学でも研究や実験を行いました。主にテロメアの長さとの関係を探り、次に寿命関連遺伝子の関係を探ります。その過程で多くのことを学び、学ぶことの意味も理解できました。将来は普通の臨床医になるつもりですが、患者の痛みを和らげることができる限り、人生は価値があると感じています。

将来、自分は日本と中国の懸け橋になりたいと思っています。将来について日本での学業修了後、日本の病院で就職したいです。優秀な日本の医者になりたいです。将来、自分の力で日本と中国の国際関係に貢献して、そして、文化と経済的な発展に頑張りたいと思っています。この路が困難なことは承知していますが、毎日一生懸命努力すれば、将来、夢を実現できると信じています。

令和4年度医学部大学院生 吳琳璇

教員からの声

河北医科大学は大きな規模の大学で、基礎医学院、口腔医学院、成人教育学院、薬学院、公共衛生学院、衛生技術学院、臨床医学院からなる総合的な医学教育機関です。さらに、大学には第1から第6までの附属病院があり、非常に充実した臨床教育が行われています。特にこの中でも第4附属病院における食道がんの症例数は世界に類がないほど多く、諸外国の大学と共同研究が進められています。

現在、中華人民共和国ならず世界的にコロナ感染が収束してきて、河北医科大学国際交流処処長Xie Hao先生より、本学との国際交流再開の連絡があり、現在具体的な計画を進めています。これからコロナ感染前の状況に一日も早く戻ることを期待しています。来年度は学生・教員の交流を再開する予定です。

医学部教授 三宅 実